

H29年度 相談支援部会振り返り・評価シート

H30年2月26日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

相談支援を行う中で、個別の事例から生じた地域課題を抽出する。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	10回	開催月	5月、6月、7月、8月、10月、11月、12月、1月、2月、3月
------	-----	-----	----------------------------------

○具体的活動内容

(1)地域課題事例の確認

相談支援部会のメンバーより、地域課題事例としてどのような事例が多いのかを確認。「医療機関への送迎問題」、「障害者の住まい」、「児童に関する送迎問題」、「行動障害等がある児童のサービス利用」が事例として上げられる。このうち①「中之島地域の医療機関への送迎」、②「行動障害等がある児童のサービス利用」について、事例をもとに地域課題について確認を行った。

(2)地域課題事例の検討

(1)の2つの事例(①、②)について事例からどのような地域課題が生じたのかを確認し、地域課題の背景をもとに地域課題の解決に向けたアクションプラン(案)を検討。運営会議へ地域課題事例と地域課題の解決に向けたアクションプラン(案)について提案を行った。

(3)地域課題事例検討プロセスの検討

①の地域課題事例検討後に、地域課題事例の検討プロセスについて振り返りを実施。事例において『個別支援における課題』と『地域課題』を整理するプロセスが必要であることを確認。②の地域課題事例の検討から、『個別支援における課題』と『地域課題』を整理するプロセスの導入を行った。

○取り組みの結果及び成果 ※成果はモニタリングを実施した場合のみ

【H29年度 部会の取り組み結果】

年間を通じて2つの地域課題事例を部会内で共有し地域課題として抽出。
※①「中之島地域の医療機関への送迎」 ②「行動障害等がある児童のサービス利用(事業所の受け入れ)」

①の地域課題について

運営会議を経てワーキングが発足。ワーキングにて「福祉送迎サービス」における課題を確認・検討した結果、『個別支援における課題』として検討が必要であることが確認できたため、改めて相談支援部会にて事例検討を実施。個別支援におけるアイデア出しを部会メンバーで行い、支援におけるアイデアを事例提供者へ還元した。

②の地域課題について

運営会議を経て、「施設・事業所職員のスキルアップを目的に研修への参加や研修機会の確保について」は、地域課題の解決に向けた取り組みをワーキングで検討することとなった。また、ワーキングでの取り組みと合わせ、「学校とサービス提供事業所の見学会・情報交換について」は子ども家庭センターとの連携・協働にて実施を検討、「医療につながりにくいケースの事例検討会について」は、基幹相談支援センターで実施する事例検討会を活用していくこととなった。

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気づき、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

○部会の内容について

- ・地域課題に特化して考える機会はなかったが、事例検討を通じて個別課題と地域課題の振り分けと、相互につながっていることが分かってきた点良かった。
- ・まずはアセスメントをきちんと行い、課題を明確にしたうえで事例の選定をする必要がある。個別の検討を行ったうえで出てくる課題が地域課題だと感じる。
- ・他の人のアセスメントから学べるが多く、様々な視点で事例を考えることができた。
- ・地域の状況が分からないと、課題や現状把握ができず、解決方法のイメージがしにくい。そのため、支所の職員など把握している人に入ってもらえると効率が良い。
- ・地域課題を抽出することや、地域課題の判断や見極めが難しかった。

○その他

- ・部会から運営会議へあがっていくプロセスが分かり、意識が高まった。
- ・相談支援部会については分かってきたが、他の部会とのつながりや運営会議、ワーキングの内容などが分からない。他の動きについても具体的に聞く機会があっても良いと感じた。
- ・ワーキングの結果のみではなく、過程も知りたい。実際のワーキングに参加していないとイメージがしにくいと思った。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して自分たちが知らない地域課題(状況)を把握。 ・福祉サービス等供給実態調査の結果を共有。 ・普段関わる機会がない児童に対する支援の実情が分かった。 ・運営会議に地域課題を発信。 ・なるべく多くの人に協議会に関わってもらえると良い。 ・部会や協議会の内容を事業所で共有することができなかった。
調整機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・中之島のケースでワーキングを通して地域状況の確認。 ・地域診断のための調整。 ・解決策のアクションプランが複数出た中から、優先順位をつける調整を実施。 ・個別課題と地域課題の違いを考え、振り分け作業の実施。
開発機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を行いアクションプランを立てることが開発機能。 ・事例内容によって該当地域の職員に入ってもらい、地域の状況を確認。 ・フォーマルな福祉サービスのみではなく、インフォーマルな資源に目を向けた検討の実施。 ・地域診断を行い、送迎問題が児、者共通の課題であることが分かった。
教育機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・参加することで知らなかった情報を得ることができる。 ・内容について事業所内で共有することで、参加者のみでなく事業所全体の学びとなった。 ・アクションプランにある「事業所への研修」などは、地域全体の学びとスキルアップにつながる。
権利擁護機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・事例に返すという視点から、本人の希望する生活、思いの実現を大切にできた。 ・本人のみでなく家族や介護者を含めての検討ができた。 ・事例1人の課題から、本人以外の課題解決にもつながる。
評価機能	有・無	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が個別課題なのか地域課題なのかを評価。 ・福祉サービス等供給実態調査の結果を共有し、現状を評価。 ・部会で取り組んでいるプロセスを評価し、その都度やり方を工夫してきた。 ・部会からあがった課題のその後の取り組み(ワーキング等)の進捗確認。

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 終了
継続・終了の理由	相談支援を行う中で、個別の事例から生じた地域課題の抽出と、解決に向けた取り組みを行う必要があるため。併せて相談支援を行う中で、地域課題を捉える視点が必要であり、来年度も継続が必要と考える。

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

来年度の取り組みに対するモニタリングの実施	有	無	モニタリング実施時期	年	月
-----------------------	---	---	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】 ※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

- ①個別ケースから地域課題を捉える視点や協議会を活用して地域課題の解決を図っていくことを、相談支援従事者の役割として地域で実践していくためには、改めて相談支援部会のメンバー(相談支援従事者)としての学びが必要となる。
⇒地域課題の抽出だけを部会の目的・役割に限定せず、教育機能を部会として色濃くしていけるよう学びを深めるような機会を作る(EX: 相談支援部会として協議会や地域づくり等の内容について研修を行う等)
- ②相談支援従事者(事業所)が日頃抱えているケース、相談支援から見る地域状況はどうなのか等の確認からスタートすることで地域状況を部会メンバーで共有(情報機能の位置づけとする)でき、地域状況共有や地域課題のカテゴリー分けにもつながると思われる。
⇒今年度は地域課題事例について手上げ方式としたが、来年度は「地域状況の確認」、「課題集積」等から開始、そこから事例をピックアップし地域課題を深めていけるようなプロセスを導入する。
- ③地域課題の分析が十分でないと、アクションプランも具体的で効果的な取り組みにできないことから、地域課題の可能性のあるものについては、地域課題の分析に時間をかけ地域課題の裏付けをしっかりと取れるようにする。
⇒地域課題の検討プロセスに改めて地域課題の分析を行うプロセスを位置づける。
※地域課題の分析に時間をかける。
- ④課題抽出を中心に行ってきたため、部会から運営会議へ提案した課題が部会から離れたあとにどのような検討がされているのかの共有が十分でなかったと思われる。
⇒部会からの提案後、課題がどのような取り組み状況であるのかをはじめとした課題の進捗状況について共有できるよう報告の機会を部会開催時に意識的に設ける(協議会全体の動きや相談支援部会に直接関係しない部会・ワーキングの進捗等も可能な限り共有できるようにする)。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】 ※来年度継続の場合

【来年度の方向性】

相談支援からの課題抽出・解決に向けた取り組み方法の提案と合わせ、相談支援部会における教育機能の強化を図る。

【来年度の具体的取り組み内容】

- 新たな検討プロセスによる地域課題の抽出及び解決に向けた取り組み方法(アクションプラン)の提案
⇒課題集積、地域課題の分析(地域診断・社会資源の確認・評価)を検討プロセスに改めて導入
- 相談支援従事者として「協議会を活用し、社会資源の開発・改善」の役割を担うための研修会等の実施
⇒相談支援部会における教育機能の強化